

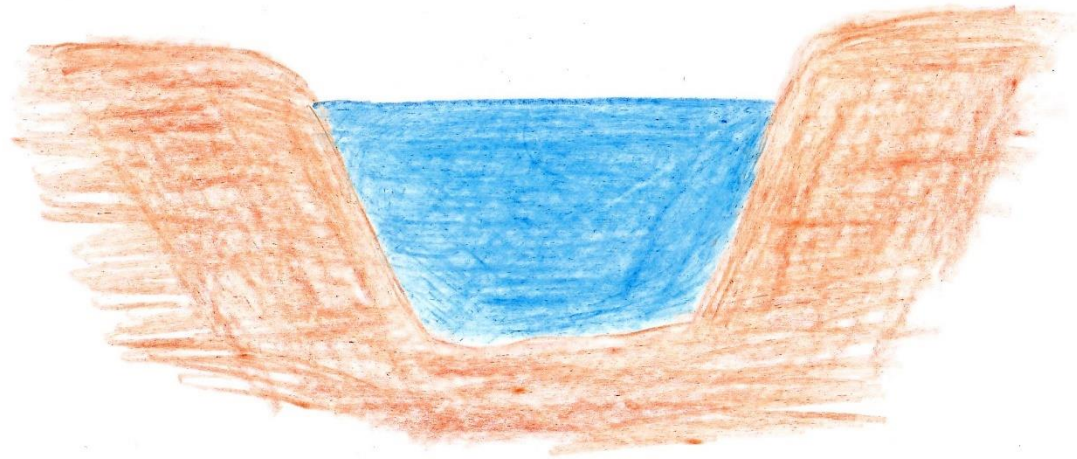
# 玉川上水が~~残~~された経緯と市民運動

～資料から読み取る保存の意思～

2021年11月28日

鈴木浩克（井の頭自然の会 代表）

1654年 承応3年 完成 367年前



関東ローム土を素掘りで開削

1670年 寛文10年 完成から16年後



堤を保護するために松や杉が植えられた（福生市文化財審議会 吉江氏論文より）

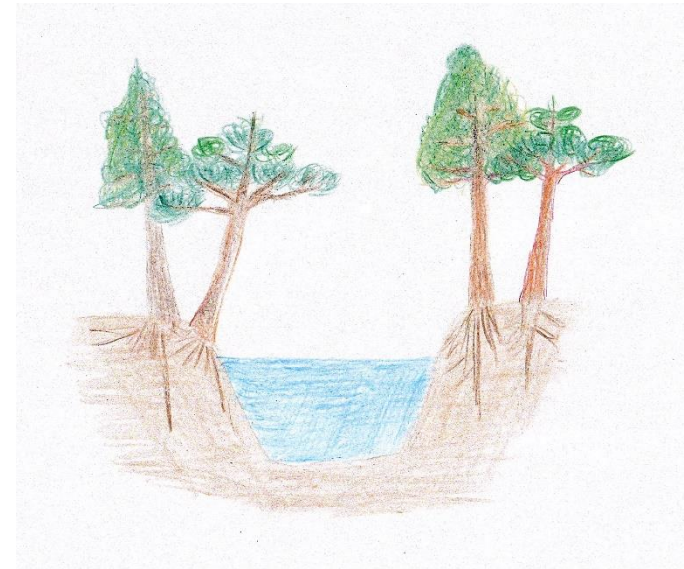
「上水に木は無かった」「土手にサクラだけが本来の姿」は間違い

1741～1744年 寛保年間 完成から90年後（諸説あり）

小金井地区の樹木は観光資源としてヤマザクラに植え替えられた



小金井市を中心6 km区間



他の地域

1924年 大正13年 名勝・小金井桜 指定 今から97年前



# 1962年 昭和37年 風致地区 指定 (小平市全域と小金井市の上流側半分)

自然的景観を保存する国の法律 通水停止の3年前



この時点で、あるていどの樹林があったから風致地区に指定されたはず



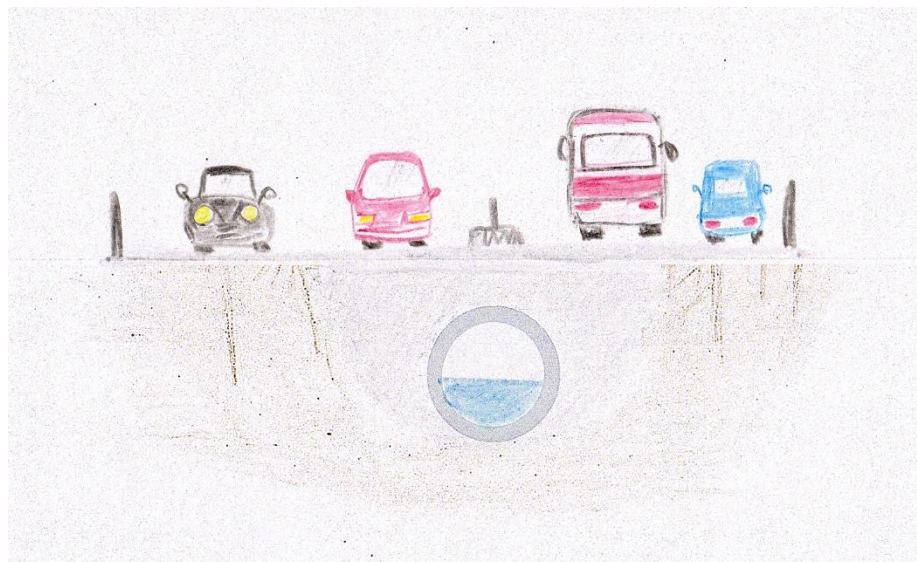
1965年 昭和40年 通水停止 水道水路としての役割を終える



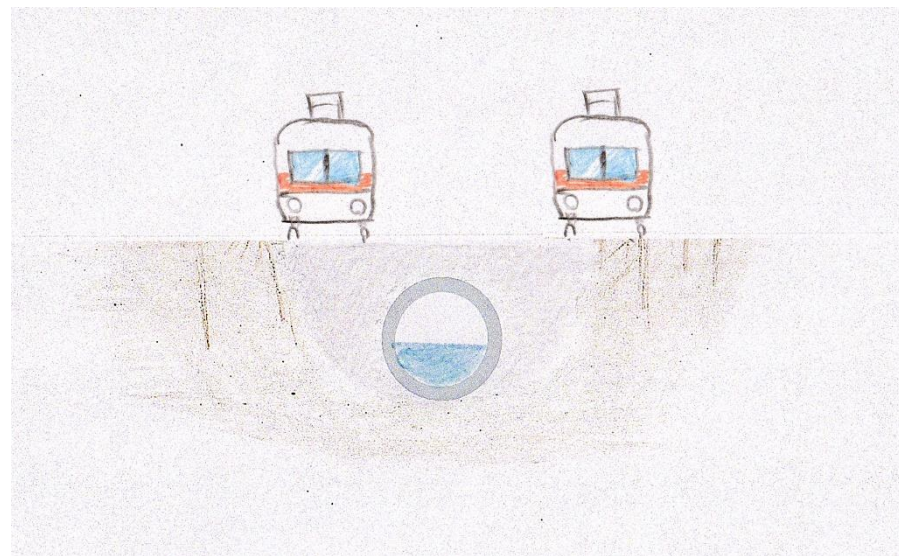


## 1965年～1970年 昭和40年～45年 通水停止後の利用案

道路化



鉄道化



通水停止後の玉川上水は、暗きよにしたのち40メートル幅の道路にする計画（一部着工）や、鉄道、モルレールにする計画があった。

1966年 昭和41年 2月19日 朝日新聞

## 『無残、玉川上水の並木』

杉並区域の暗きよ化で木々が皆伐された。現地調査もせず都民の財産である緑をなくす「無神経さにあきれる」という投書者の言い分を、今後の行政に十分反映させてほしいものだ。

1966年 昭和41年 4月6日 毎日新聞

## 『武蔵野の名ごりを大切に』「玉川上水を守る会」が発足

玉川上水を守ろうという人たち約50人が井の頭弁天堂に集まり「玉川上水を守る会」発会式を行った。



## 玉川上水を守る会（武蔵野市）

昭和41年に下流域が埋め立てられるのを見てすぐに結成

- 都議会に自然保護のために玉川上水を残すことを求める請願提出
- 都知事に会って陳情を手渡す
- 当時できたばかりの文化庁を訪れ、史跡として保存するように申し入れる

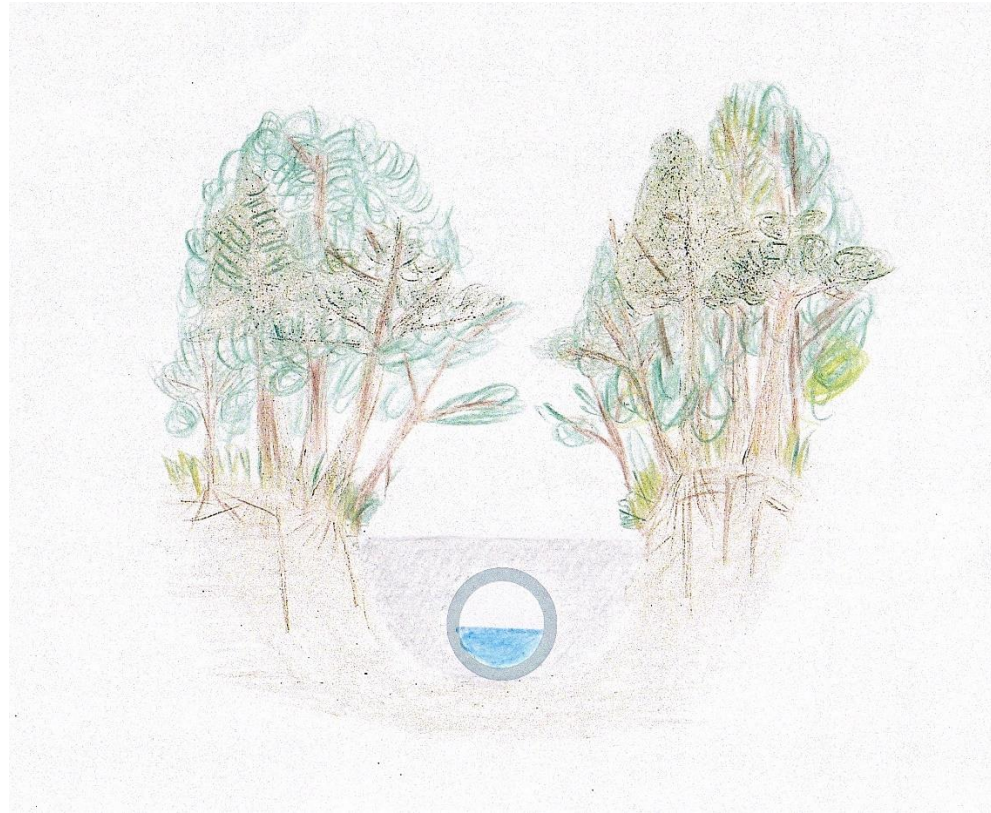
昭和46年、都議会で4年間の継続審議ののち、玉川上水を守る会の請願が採択される

## **1972年昭和47年 美濃部都知事答弁で道路計画は撤廃される。**

『この玉川上水はどうしても残さなければいけない、そうかたく決意をして、関係部局にもそう申しております。したがって、いま申されましたように、計画街路から取りはずすことがよければ、それを実行いたします。また、玉川上水を保護する上においても最大の努力を払いたいと存じておりますし、さらに遊歩道をつくること、これもぜひ実現したいと考えております。』（都議会議事録より）

## **遊歩道案が始まる。**

**道路・鉄道案の次に登場した遊歩道案とは**



2600ミリの水道管を埋設した後、コンクリートで固め遊歩道やサイクリングロードにする案。岸辺の自然は残されるが、水環境は乏しくなる案。



1971年 昭和46年 4月7日 読売新聞

## 『“最後の自然”大事に』

二千六百ミリの水道本管を上水に入れて送水力を上げようと大規模な水道拡張計画を立てている。だがそんな工事をやったら、玉川上水の自然はメロメロに破壊されてしまうのでは、と市民は心配する。緑が壊されるのはゴメンだ。自然を破壊しない工事を要求する。

(遊歩道化に反対する市民の声)

1972年 昭和47年 4月22日 朝日新聞

『野趣ただよう雑木林 保存が決まった玉川上水べり』

玉川上水の一部が林間遊歩道として残されることになった。守る会が立ち上がらねば自動車道になっただろう。あぶないことだった。(遊歩道化を歓迎する論調)

1972年 昭和47年 5月10日 読売新聞

『玉川上水歩道化にふれて 自然を蘇らせよう』

評論家：野田宇太郎 少しでも水が流れるようになれば堤防には草木が喜び、昆虫もおのずから生まれてくる。(守る会は遊歩道化に反対)

1972年 昭和47年 5月25日 朝日新聞

『玉川上水べりに散歩道 “クルマ派”に勝った武蔵野の自然』

虫の音すだく12キロ。実った根強い運動。「野草や雑木林が荒らされているところ以外は、なるべく手を入れずに自然のままにするつもりです。大都会のすぐそばでこんな長い散歩道はほかにない。歩くだけの散歩道にしたい」（都建設局の話）（遊歩道化継続）

1976年 昭和51年 史跡指定で国と都が合意

（埋め立てて遊歩道にする案は撤廃され、自然と史跡を共存させて保存する方針が発表される）



岸辺の雑木林ともども永久保存することで都と国が合意。

昭和51年4月8日毎日新聞

# 玉川上水、国の史跡に

## 都と文化庁「武蔵野を保存」

う配を利用、福生市羽村の多摩川取水口から新宿区四谷大木戸までの四十二キロを落着かずかに十一キロで掘り抜いた。当時としては最高の土木技術がこめられた。

明治以降も大正、昭和とふくれあがる東京市民の「生命線」の役を果たし続け、昭和四十年、東京都水道局の淀橋浄水場の閉鎖とともに一部の区間を残してその役割を終えた。

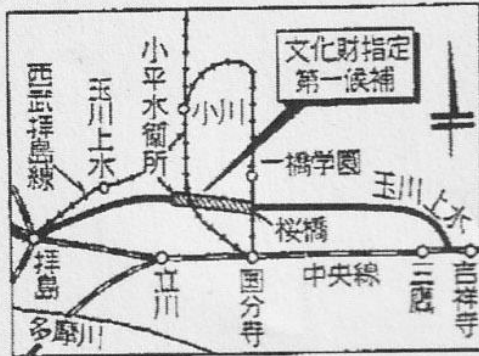
現在、杉並区高井戸から下流の十二キロは暗渠になっているが、上流の三十キロは関東ローレルの赤土をV字型に五キロから十キロ掘り下げた往時の導水路がいまも背の姿を保っている。

文化財の史跡指定の第一候補区間は、上水の痕形がよく保たれている小平市中島町の都水道局小平水橋所から小平市の桜橋近辺に至る約五キロの区間。現在でも風致地区に指定されているが、水路は幅十キロから二十キロ、深さ七、八メートルの林が運んでいる。

しかし、都水道局は多摩の人口急増に伴い、この区間を緊急時の送水路として再利用したいと主張。下水道局も将来、下水処理水を流したいとし、現状の凍結をめぐ

三百年の間、江戸、東京の市民に多摩川の水を運び続け、東洋版「ローマの水道」とその土木技術を解明されてきた玉川上水（東京都福生市―東京都新宿区四谷）の上流部を国の文化財（史跡）に指定、岸辺の雑木林ともども永久保存することが決まり、東京都と文化庁の間で、その方法など話し合う。

玉川上水は承応三年（一六五四）、四代将軍家綱の命令で多摩川の水を江戸へ引き入れるため、多摩の豪族、玉川兄弟の指揮で作られた。武蔵野台地のわずかな



す史跡指定に反対していた。だが、その後の調査で、両局とも他の送水系を使えば玉川上水を再利用する必要のないことが明らかにされ、文化財への指定を急ぐことになった。

指定後は文化庁、東京都、地元各市が費用を分担、崩れた部分の修復、清掃などの管理に当たり、堤を自然歩道に開放、万一、異常洪水になれば上水の水を一時止めて水道用水にまわすなど、緑と水の利用を妨げないようにしたい、と文化庁、都は考えている。

### 城南学園

英才を特訓指導で育てる  
中学・高校進学予備校

入園  
テスト

受付中!!

毎週土曜日 午後2時半～4時半  
対象 小5・6 中2・3

三鷹教室新設

三鷹駅北口すぐ  
☎0422(54)8211

高田馬場教室 03(208)8851	二子玉川教室 03(700)3859	自由が丘分室 03(724)0181	蒲田教室 03(736)6286
渋谷教室 03(400)8025	自由が丘教室 03(701)1960	旗の台教室 03(785)5341	本校 03(736)6206

### 掘り起こし

民衆史の掘り起こし作業が活発である。先日、北海道北見の高校の先生、小池喜幸さんがこの三月に開いた土地城民衆史掘り起こし運動交流「講演と映画」のテープの分厚い記録を送ってくれた。



しかし、未登記問題で実際の指定は27年後になる。

**1965～1986年 昭和40～61年 空堀期**

水量が減らされ、乾燥による法面の損傷が目立つようになる



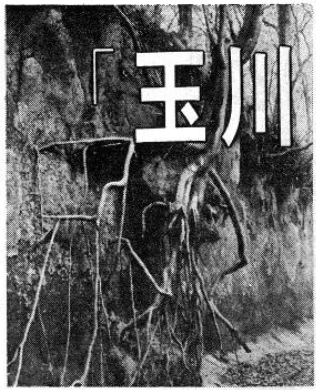
# 小平玉川上水を守る会（昭和49年結成）

## 一向に史跡指定が進まなかった空堀期に粘り強く活動した団体

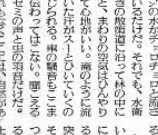
「もうい、水のない上水、年々早まる水路の傷み」



上水そばの敷設道は、通学や運動に使われる生活道路でもある——副飯高校付近（小平市）



勝手にやっとなへばりついている木の横——小平市・西武練馬の台駅付近（今年の冬に撮影）



玉川上水断面図

この断面図は、上水が地中に埋め込まれている様子を示しています。土壌の水分が減少すると、木の根が上水の管に吸い寄せられ、管が破損する危険があります。

### 「緑の宝庫」残す 具体策を早急に

歴史的「素掘り」の形態保存も 文化遺産として残す

「緑の宝庫」として残す。具体的には、上水の管を埋めずに、素掘りの形態を維持することです。これは、歴史的な景観を保全するためです。

「素掘り」の形態保存も。これは、上水の管を埋めずに、素掘りの形態を維持することです。これは、歴史的な景観を保全するためです。

このままでは、百年の持地帯、道路、緑地の消失も目撃。上水の管が破損すると、周辺の緑地も消失する危険があります。

### 危険箇所は随時補修

流量をふやすのは水不足の現状では？

危険箇所は随時補修。流量をふやすのは水不足の現状では？ 上水の管が破損すると、流量が減少し、水不足の原因になります。

「玉川」の歴史。上水は、昔から小平市に水を供給してきました。しかし、近年は水不足が深刻化しています。これは、人口の増加と気候変動によるものです。

「玉川」の歴史。上水は、昔から小平市に水を供給してきました。しかし、近年は水不足が深刻化しています。これは、人口の増加と気候変動によるものです。



1982年 昭和57年 6月24日 毎日新聞

『玉川上水に清流復活 都が計画 水路敷はグリーンベルト』

昭和59年からの清流復活を目指す (鈴木都知事が清流復活を決意)

1982年 昭和57年 6月24日 読売新聞

『玉川上水を史跡河川に 国指定受け、人工水流す』

「玉川上水」について都は23日、国の史跡指定を受けて全面的な「よみがえり作戦」に乗り出す方針を固めた。都の今回の計画は、上水をよみがえらせて都民のオアシスにしようという狙い。これ以上の「開発」にストップをかけることが必要との判断。

## 1982年 昭和57年 都議会議事録 鈴木都知事

『清流を復活して潤いのある水と緑の環境を大切に守り育てていくことが、マイタウン東京実現の重要な柱である。』

**1986年 昭和61年清流復活** 高度処理水で流れが戻る。



1986年 昭和61年 4月27日 読売新聞

## 『川底の野草守れ 通水前に土手移植』

～枯れていた間、珍種の宝庫に 21年ぶりに清流がよみがえる玉川上水で～

小金井市を中心とする愛好家のメンバーたちが川底の野草を土手に移植する作業に励んでいる。植え替え作業にあたっているのは「多摩の野草」の会員たち。サイハイラン、キツリフネ、アオイスミレ、イチリンソウ、ニンソウといった市街地ではめったに見られない野草が別天地のように咲き乱れる玉川上水。清流復活で川底に沈むことを知り、水道局の許可をとり、急いで野草を土手に植え替えることにした。植え替えは小金井市内の玉川上水（約3キロ）を中心に、6月まで続ける予定だ。



**1997年 平成9年 玉川上水景観基本軸 指定 都の都市計画条例**

現在の開渠部分全域、風致地区と同じく自然的景観の維持が目的

**1999年 平成11年 歴史環境保全地域 指定 都の環境保全条例**

玉川上水の歴史的価値と、そこに残された自然的価値をともに保存する目的

2001年 平成13年 12月12日 読売新聞

## 『玉川上水 大量落ち葉に住民悲鳴 高い位置の枝打ち申し入れ 都は難色』

「木を守る」ことを優先する都と「生活する人のことも考えて」という市民の溝は埋まらない。  
「自宅の雨どいを詰まらせる落ち葉を減らすため、高い位置の枝打ちをして欲しい」と昭島市の住民。玉川上水は歴史環境保全地域に指定されているため、都環境保全局は、**雑木林の状態を維持する保全計画書に基づいて木々の管理をしております、伐採などは景観や林の構成を保つ範囲でしかできない**という。苦情を受けた場合「個別の状態を見て検討するが、社会通念上の限度を越えていなければ、環境保全のために周辺住民の協力をお願いするしかない」と同局。昭島市も「連絡を受けて職員が掃除に出向いたり、都にせん定をお願いすることもあるが、上水は市にとっても貴重な自然。近隣住民には迷惑とは思いますが、ご協力願いたい」

## 2003年 平成15年 史跡・玉川上水 指定

念願の史跡に指定される。しかし、管理計画は「自然を残す」という理念が大幅に削られたものになってしまった。

# 通水停止後の利用案と保存案

樹木（自然的価値）      法面（歴史的価値）

道路化案	×	×
鉄道化案	×	×
遊歩道案	○	×
史跡指定 国と都の合意	○	○
歴史環境保全地域	○	○
<b>史跡合意から27年経過</b>		
史跡・玉川上水（整備活用計画）	×	○



## まとめ

玉川上水保存の意図は、自然の保護、自然的景観の保護、市民憩いの場所としての緑地環境を都市の中に残しながら、同時に歴史的価値も残すものだった。

玉川上水の保存運動をした市民団体は玉川上水にある様々な価値を共存させ、丸ごと継承しようとしていた。「名勝・小金井サクラ」も価値の一つで大事だと考えていた。(小平玉川上水を守る会の会報にヤマザクラの研究者の投稿もある)

多様な価値を共存させると、より多くの人に愛される玉川上水になる。

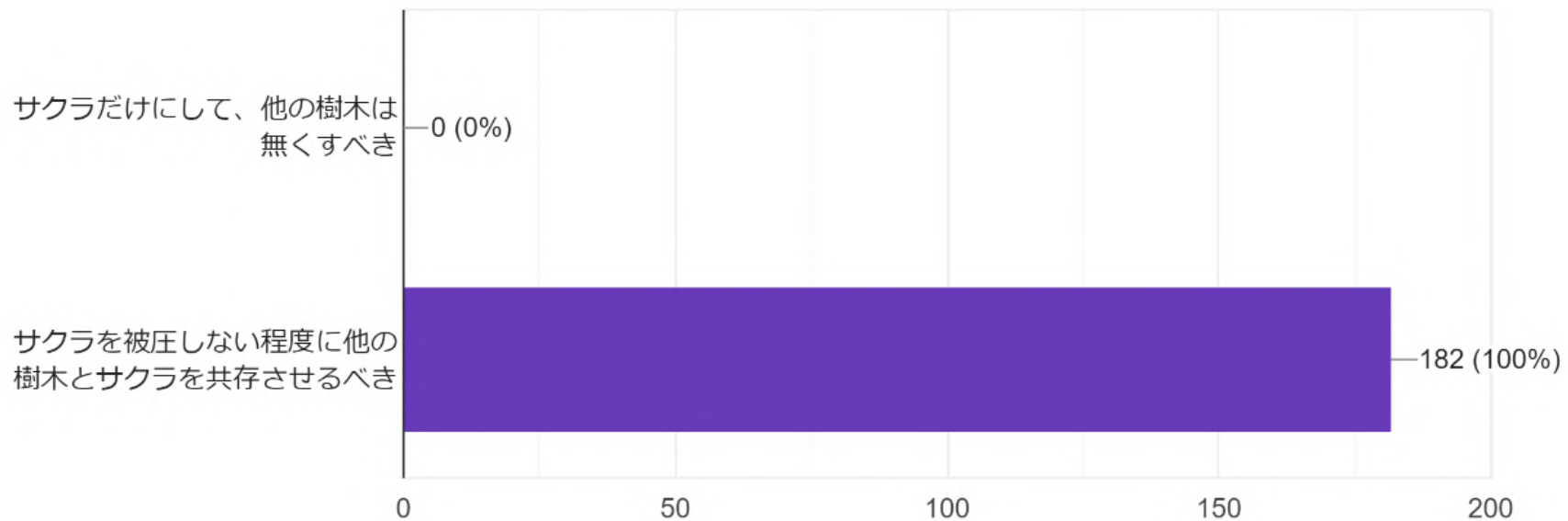
玉川上水が良い状態に戻るまで、私たちも市民運動を続ける。

# 現在の市民も大多数は多様性(共存)を支持している

(玉川上水みどりといきもの会議、アンケートから)

Q6 玉川上水小金井市区間は「名勝・小金井桜」...区域の管理は、下記のどれが良いと思いますか？

182件の回答



2021年3月に実施した小金井市議会議員選挙、立候補予定者の方へのアンケートでも

「名勝復活のためには桜以外は排除すべき」という答えは0%だった

「他の樹木との共存を図り、名勝の復活と生物多様性を両立させる」60%

「その他」40%

「その他」の回答も、共存を支持や自然保護重視を指摘する内容がほとんどだった。

小金井市区域玉川上水をサクラだけにするのは、上水の価値を独り占めするものである。

小金井市は民意を調査し、多様な価値観を共存させた管理に方針転換すべき。

ご清聴ありがとうございました